

## 市指定史跡

## 山家宿郡屋跡

江戸時代、幕府や諸藩によって整備、管理された道路交通網、東海道など五街道に代表される街道と宿駅（宿場）の制度がありました。筑前国・福岡藩領内を通過する諸街道沿いに設置された27の宿駅（宿場）のうち、九州の幹線、旧長崎街道沿いの黒崎・木屋瀬・飯塚・内野・山家・原田の6つの宿駅（宿場）は参勤交代の大名行列や旅人の往来が特に多く、筑前六宿（街道）と呼ばれました。特に山家宿は九州の難所・冷水峠越えの宿駅として、また、長崎街道、日田街道、薩摩街道（松崎往還）が交差する追分宿として、福岡・博多や二日市、太宰府、秋月、甘木、天領日田、松崎（現小郡市）・府中（現久留米市）などを通じる

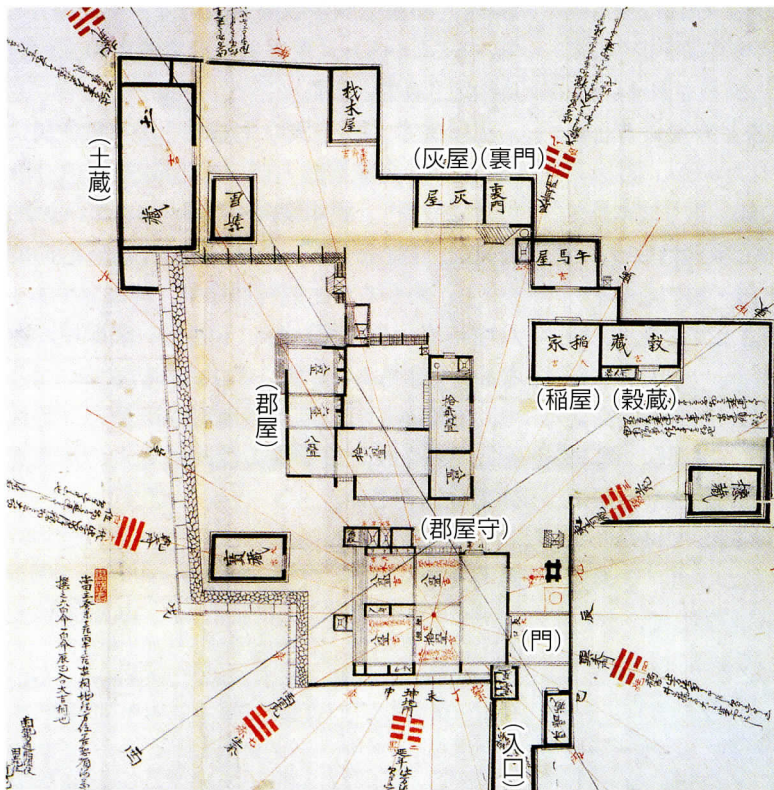
交通の要衝でありました。

そのため、山家宿にも、宿場の機能を果たす公的な諸施設が福岡藩により整備されました。中でも、郡屋と呼ばれる施設は、倉庫施設のことで、筑前六宿をはじめ、筑前領内の主要な宿場に置かれていました。旧御笠郡では、山家宿・原田宿・二日市宿にありましたが、史跡として現存しているのは山家宿だけで、貴重な歴史・文化遺産です。参勤交代の大名行列通行に係わる件や藩からの重要な伝達があったときには、ここに郡奉行や宿駅に配置された代官や下代、大庄屋、庄屋組頭など村役人が集まって会議・打合せを開きました。

また郡屋には、大名行列が通行する際の

休憩や宿泊の準備や供応、道路清掃など街道・宿駅の維持・管理、人・馬の提供や荷物の運搬などの夫役（助郷）、その他臨時的雑役動員などで使用した必要な諸道具類が納められていました。

天保六年（1835）9月、福岡藩主黒田斉清が山家宿に宿泊したとき、5日間で延べ53人の農民が郡屋に詰め、諸品の出し入れに従事した記録（「竹森家文書」）があります。そのときの諸品の数「夜着105・布団7・莫産105・行燈5・枕



郡屋指図 文久2年(1862年)

100・風呂桶 12」でした。この他、郡屋に備え付けられていた道具類には、「膳碗類・たばこ盆・蚊帳・半縄・薪・草履・わら・薄縁・御手洗田子・手水鉢・筵・茅」などがありました。これらが土蔵をはじめ、郡屋の施設内の倉庫に収納されていたと考えられます。

当時の宿駅の地域住民にとって参勤交代などに伴う助郷は大変な負担だったようです。山家宿は長崎街道と日田街道、薩摩街道が交差する交通の要衝で、九州各藩の諸大名をはじめ、幕府の長崎奉行や日田郡代など諸役人が頻繁に通過しましたが、そのつど人々は荷物の運搬や道路清掃、御茶屋その他の宿泊・休憩所の掃除、警備、その他雑役などのための労働力として動員されました。それに加え福岡藩は佐賀藩と一年交代で長崎警備を担当していて、その際も人々は諸役に動員されました。明治になり廃藩置県後、重税と労役に苦しむ人々の恨みは郡屋に向けられたのか、明治六年（1874）筑前竹槍一揆の際、取り壊されてしまいました。今では郡屋本体と宝蔵は残っていませんが、郡屋守の屋敷や土蔵・裏門などそのほかの建物は史跡として保存されており、往時を偲ぶことができます。

また山家宿の郡屋については、さいわい文久2年（1862）に作成された指図（平面図、写真参照）が保存されており、建物の広さや位置関係がよくわかります。それを見ると、門を左に郡屋守（管理者）の屋敷があり、その先が郡屋でちょうど敷地の中央に位置しています。郡屋は入口の先が土間になっており、土間を囲むように8畳・6畳・8畳・16畳・8畳・12畳の6部屋が設けられていました。

郡屋の右には稲家と穀蔵、その奥に牛馬小



山家宿郡屋土蔵（市指定有形文化財）

屋があつて裏門に続いています。裏門の並びには堆肥小屋の灰屋・材木小屋・新屋があり、一番奥に土蔵があつたようです。土蔵は柱は使わず、建物全体が赤土ににかりを混ぜ合わせた土壁で築かれていて、壁の厚さは約 50 cm で内部は 13.6×5.1m あります。この建築構造は珍しく、郡屋土蔵が筑前六宿内で、唯一現存していることから大変貴重で筑紫野市の文化財に指定されています。

郡屋跡は、国道 200 号線から山家郵便局にほど近い、山家宿跡入口（旭化成看板が目印）付近に位置し、説明案内板も標示されています。付近は、「寛永十年」の銘があつて山家宿の成り立ちがわかる恵比須石神像や、町茶屋であつた中茶屋（長崎屋）跡、下茶屋（薩摩屋）跡などの史跡もあります。ぜひ山家宿を歩いてみて、風情ある旧街道や宿場町の町並み、時代を経て残された建築物の意匠や先人の知恵を体感してください。

（竹川克幸）

#### 参考文献

『筑紫野市史』、『筑紫野の指定文化財』、『筑紫野市文化財調査報告第65集 山家地区史跡整備調査報告Ⅰ』河島悦子『伊能図で甦る夢 長崎街道』、『長崎街道 大里・小倉と筑前六宿』（のぶ工房）、『アクロス福岡文化誌1 街道と宿場町』（海島社）